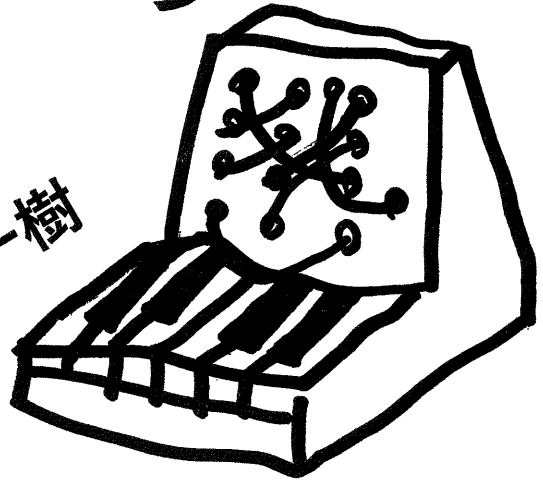


メロディーのちひびき

企画：スラッシュエム



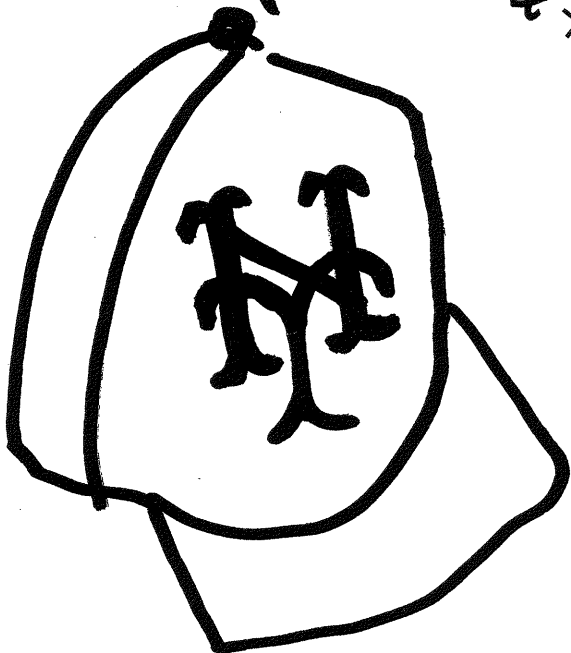
斉田一樹



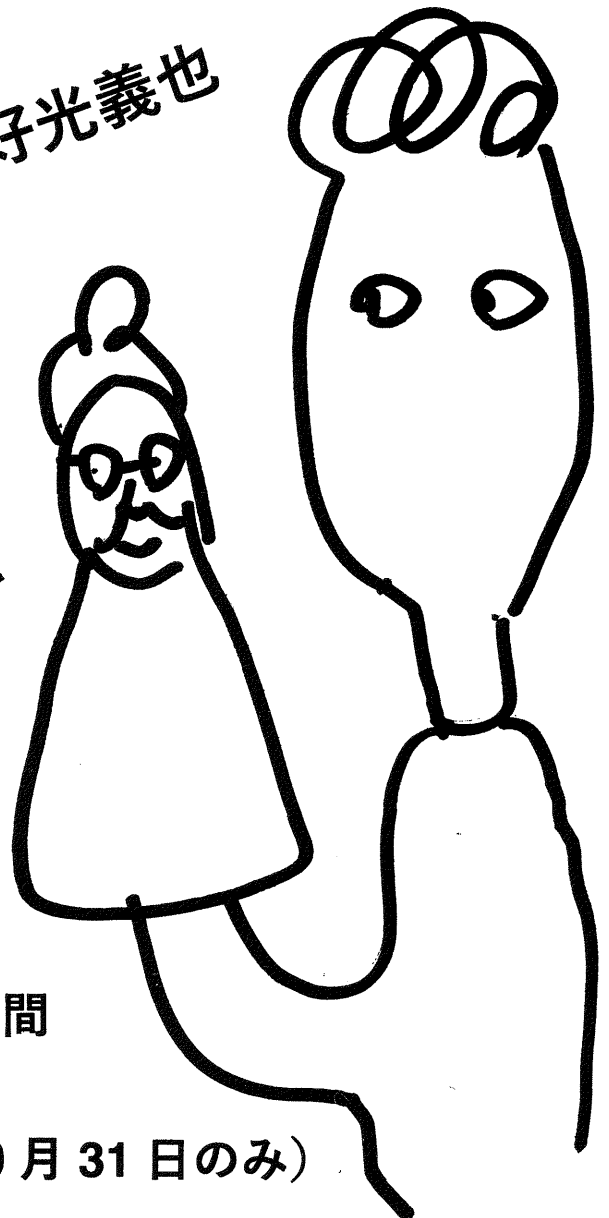
After the melody is gone

音無史哉 + 小野田藍

好光義也



新元良一



2026 年 10 月 24 日(土)、31 日(土)

11 月 1 日 (日)、21 日 (土) の 4 日間

広瀬川コート &

ロブソンコーヒーアーツ前橋店 (10 月 31 日のみ)

メロディー のち ひびき

音にまつわる4日間のイベント

斉田一樹、音無史哉＋小野田藍、好光義也、新元良一

< 開催日程 > (4日間・全日入場無料)

10月24日 (土)

斉田一樹による電子楽器ワークショップ

会場：広瀬川コート（群馬県前橋市住吉町2-2-16）

時間：14:00～18:00

10月31日 (土)

音無史哉＋小野田藍によるライブ

会場：ロブソンコーヒーツ前橋店（群馬県前橋市千代田町5-1-16 アーツ前橋内）

時間：16:00～16:30

11月1日 (日)

好光義也によるパフォーマンス

会場：広瀬川コート（群馬県前橋市住吉町2-2-16）

時間：17:00～

11月21 (土)

新元良一によるレクチャー「世界市民になる Global Citizenship」

会場：広瀬川コート（群馬県前橋市住吉町2-2-16）

時間：16:00～

< 参加アーティスト >

斉田一樹

1981年生まれ。電子楽器製作者、プログラマー。東北大学工学部電子工学科卒業。情報科学芸術大学院大学修了。メーカーでの電子楽器開発を経て現在は「木下研究所」名義で自作の電子楽器の開発と販売を行う。ステージ上で楽器を0から組み立ててライブを行う「Breadboard Band」、自作楽器テクノユニット「車輪の再発明」、ソロ等でライブ多数。その他『Make: Analog Synthesizers』『エレクトロニクスをはじめよう』の監訳なども手がける。武蔵野美術大学映像学科非常勤講師、東京大学アルスノーヴァ講師。

音無史哉

笙、雅楽奏者。コンピュータ音楽研究時に雅楽と出会い、笙を手取る。笙、古代歌謡、楽箏、右舞を豊英秋氏（元宮内庁式部職楽部首席楽長）に師事。古典の演奏を各地で重ねつつも、その可能性を追求する実験音楽を実践し続けている。Tim Heckerワールドツアー、蓮沼執太フィル、池田謙や大巻伸嗣とのコラボレーション、他国や他民族の伝統文化との協働、ライブセッション、映画等、国内外の演奏多数。近作ではエミー賞受賞「SHOGUN 将軍」など、国内外の音楽プロジェクトにも多数参加。

好光義也

アーティスト。1994年滋賀県生まれ。2019年同志社大学文学部美学芸術学科卒業。2022年東京藝術大学大学院先端芸術表現専攻修了。主な展覧会に「体から浮かび上がる不確かな何か」（Mikke Gallery、2025年、重文敏との二人展）「オブジェクト・シアター | 好光義也」（The 5th Floor、2023年）。主な作品上演に「千代に、八千代さんに」（アイムヒアプロジェクト、YPAM2022フリンジ、2022年）、「#伴走」（高地トレーニングスタジオSORELA、Art Rizhome Kyoto2023、2023年）。自作以外にも福井裕孝（京都）、Dick El Demasiado（オランダ）、Iannis Zannos（ギリシャ）など、国内外のアーティストとのコラボレーション多数。

新元良一

作家。1959年神戸市生まれ。米ニューヨーク市ブルックリン在住。1984年にニューヨークに渡り、22年間暮らす。その後帰国して京都造形芸術大学教授を務めた後2016年末に再び活動拠点をニューヨークに移す。『WIRED』『Esquire』『ダ・ヴィンチ』などに文芸翻訳、評論、エッセイ、インタビュー記事を寄稿。これまでに小説家のポール・オースター、音楽家のデビッド・バーンやローリー・アンダーソンなど、アメリカ文化を担う表現者たちにインタビューを行う。著書に長編小説『あの空を探して』（文藝春秋）、対談集『翻訳文学ブックカフェ』（本の雑誌社）、インタビュー集『One author, One book～同時代文学の語り部たち』（本の雑誌社）など。

企画・主催：スラッシュエム

共催：前橋工科大学石黒研究室

協力：ロブソンコーヒーツ前橋店